

高齢社会先進県・山梨だからこそ 伝えられる「高齢者在宅ケアの経験知」を カンボジアへ、アジアへ



研究代表者 山梨大学総合研究部・医学域看護系/国際化推進センター 宮本和子
(共同研究者) 山梨大学総合研究部・医学域看護系 神崎由紀、霜越多麻美

高齢者ケアの「経験知」を人から人へとつなげる新しいビジネスモデル、山梨発の世界展開モデルの開発に挑戦しませんか？

・背景：カンボジアと日本との双方での地域保健・看護実践と研究の経験から見てきたもの

1. カンボジアで25年間の活動：カンボジアの変化・高齢者ケアへのニーズ

社会の変化

経済成長

少子高齢化の急速な進行
社会保障・福祉制度の基盤が脆弱

高齢者在宅ケアに関する声

日本の在宅ケアから学びたい
既に高齢者日中独居の課題有

2. 山梨の高齢者在宅ケアの強みと課題

高齢社会先進地・山梨

世界一の長寿・高齢社会
山梨・日本の「高齢者在宅ケア」蓄積・経験知
在宅ケア人材の不足と高齢化

課題は、裏返せば、チャンス！

山梨の「高齢者在宅ケアの経験知をカンボジアへ！」

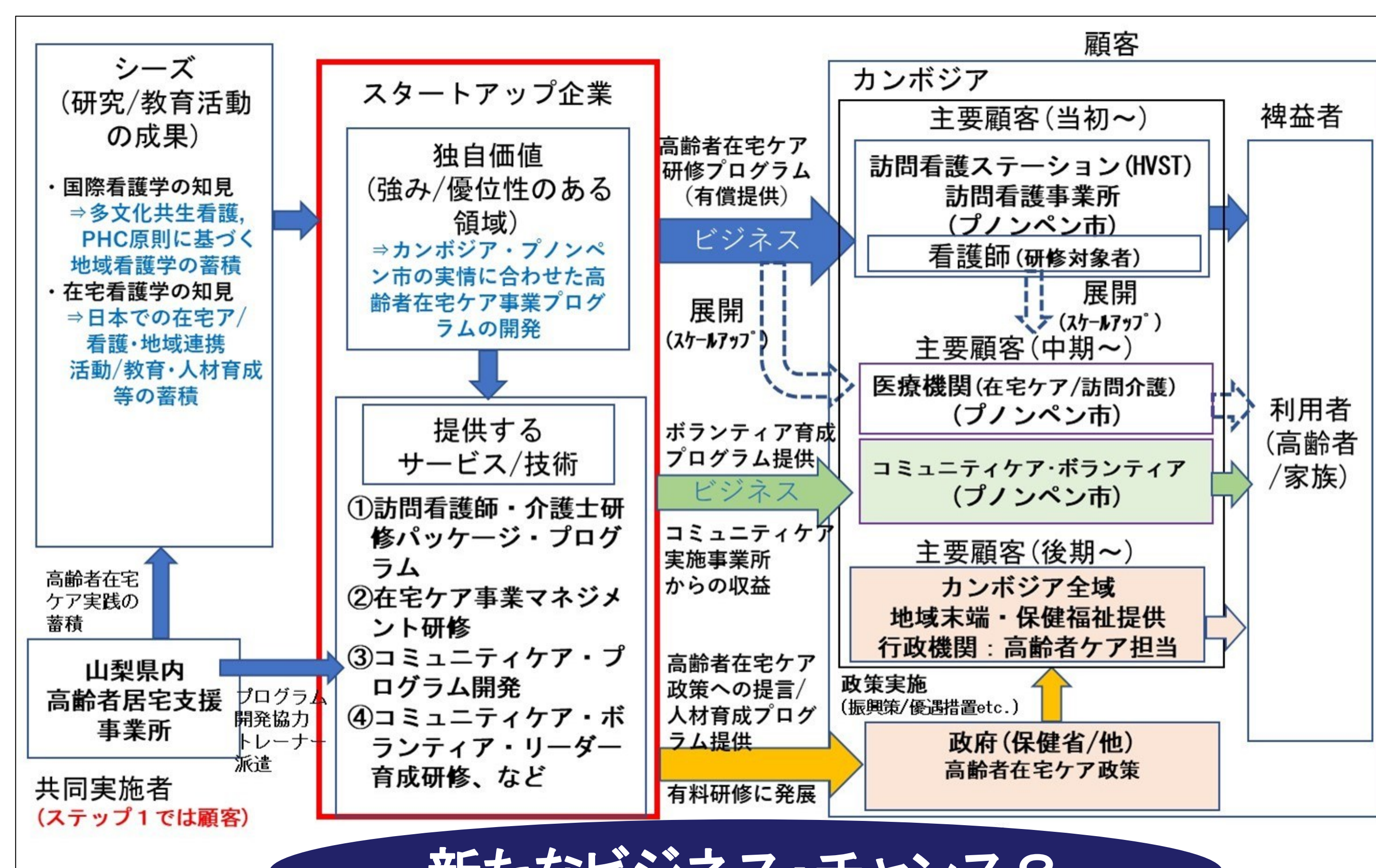
・一石二鳥：人材育成への貢献と山梨県の人材不足解消

- ✓訪問看護人材の育成：日本での研究、カンボジアでの研修プログラム開発と実施
- ✓介護人材の育成：特定技能・介護や技能実習生受入れとの連携

・カンボジアでの共同事業の実施

- ✓地域在宅ケアモデルの開発：在宅看護事業所との共同
- ✓カンボジア保健省や社会保障省等との連携は？

研究助成やプロジェクト
助成へ挑戦中



新たなビジネス・チャンス？



残念！不採択という結果、フィードバックは、
・海外諸国で大きな社会的インパクトや社会実装モデルとしての可能性

・東南アジアを中心に絶対に必要にな取り組み

・新しい切り口でのビジネスアイデア

課題としては、

・シミュレーション必要

・具体的な顧客候補作り、ヒアリングを進める必要性

・ビジネスモデルの具体化が必要、継続性が課題

活動主旨：住み慣れた地域の互助による日中独居の高齢者のための安心に過ごせる場づくり

<ボランティア育成>

> 研修内容

- ・高齢者の身体・心の理解
- ・栄養と活動
- ・安全管理
- ・レクリエーション技術、他
- > フォローアップ研修
- > 研修実施：CP、専門家等

<活動の概要>ボランティア・リーダーが自宅一階を開放し、

高齢者対象にレクや体操などしながら、場所の提供と見守りを行う

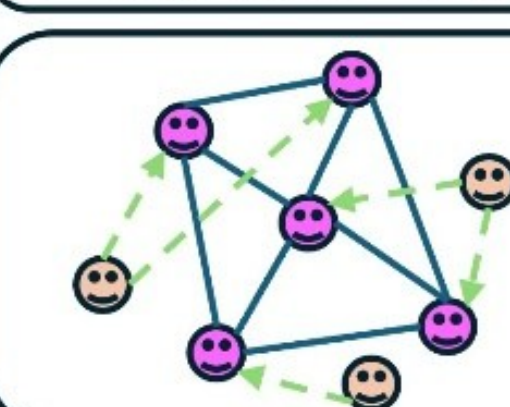
<対象と人数> 近隣の日中独居の高齢者、数名

<活動スタッフ> ボランティア・リーダー、ボランティア・サブ・リーダー

<利点> カンボジアの家の造りを活用できる。

少額の参加費を徴収し、ボランティアの収入源になる。

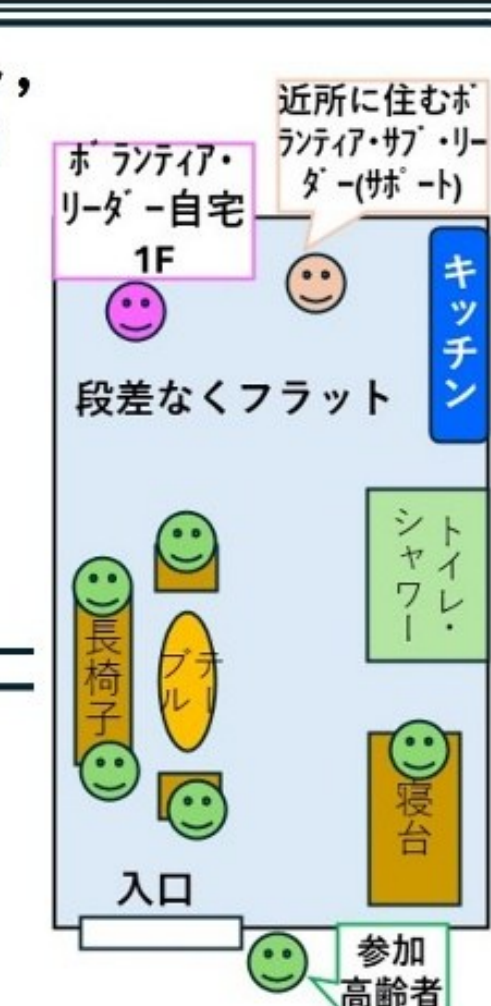
<サポート> 山梨大学ブノンペン事務所、CP、専門家等



ネットワーク形成：近隣のCell間で活動を協力・補完

ボランティア・リーダー

ボランティア・サブ・リーダー



デイサービス・カンボジア版案：カンボジア人に好評！

・山梨の持つ「知」、強みを生かした国際貢献＋山梨の課題！

⇒人と人とのつながりが生む、「新しいビジネスのかたち」